

那覇滑走路増設を支援

谷垣自民総裁が意向

自民党の谷垣禎一総裁は8日米県し、県庁で会談した仲井真弘多知事と沖縄振興などについて意見を交わした。谷垣総裁は前任前の記者会見で、那覇空港第2滑走路の整備について「沖縄が国際的な役割を果たすため、県部の飛行場が満杯では沖縄の発展の桎梏になる。知事もスクラムを組んで頑張りた」と述べた。那覇空港の過密状態が沖縄振興の妨げになると強調し、早期整備を積極的に後押しする考えを示した。

県議選与党多数へ決意

会談では仲井真知事が、走路増設を要請した。米軍改正沖繩振興特措法（沖振）普天間飛行場の返還・移設、跡地利用推進特措法（跡地法）成立への協力に謝意を示し、那覇空港の滑

2法成立について、自民党の実績として県民にアピールし、6月の県議選の準備につなげたい狙いがある。谷垣総裁は記者会見で、「県議選で安定した知事与党をつくらないといけない。そのために党本部もできる限りバックアップする」と話し、法案成立の実績を掲げ、県議選で与党多数を目指す決意を示した。

普天間問題について、谷垣総裁は「民主党政権が辺野古移設案をぶっ壊した後、県連が非常に困惑したのは理解できる」と述べ、県外移設に方針転換し



那覇空港の滑走路増設などについて、谷垣禎一自民党総裁（左）に要請書を渡す仲井真弘多知事（右）8日、県庁

を前提とする暫定的な県内移設案について「論評に値しない。愚論だ」と批判した。谷垣総裁は、翁長雄志県市長会長、城間俊安県町村会長、下地敏彦美々島美しや市町村会長とも県連事務所で会談。県軍用地等地主連合会の喜屋武茂夫会長らとも意見交換した。逢沢一郎総裁特別補佐、自民党の沖縄振興に関する特別委員会の川口順子委員長、島尻安伊子事務局長が同席した。

県連が「県外移設」を掲げる一方、党本部は「辺野古移設」の方針を保っており、ねじれが生じている。民主党の一部議員が提案した将来の県外・国外移設